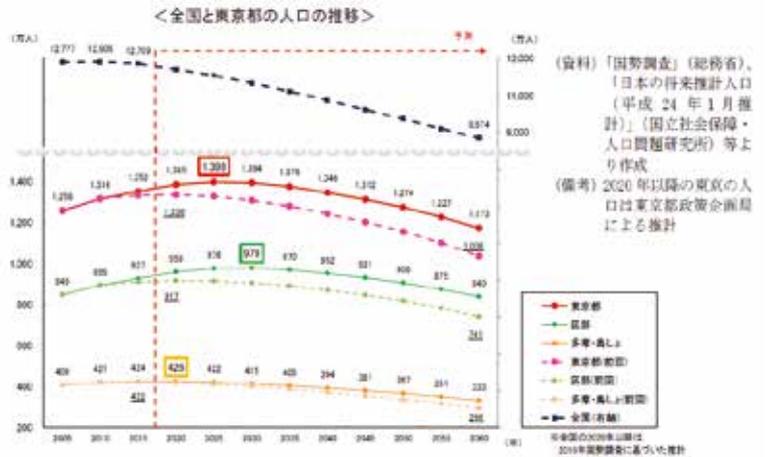


第1章 インフラ・ストックを取り巻く背景

1-1 今後迎える人口減少・少子高齢化社会

- 平成27（2015）年国勢調査による人口を基準に、2060年までの東京の人口を推計すると、東京の人口は、今後もしばらく増加を続け、2025年の1,398万人をピークに減少に転じるものと見込まれる。



出典：都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～（平成28年12月）

1-2 ストック効果最大化の視点の必要性

- 今後、財源の縮小や社会福祉費の増加、高度成長期に集中的に整備したインフラストックの更新期の一斉到来等による財政圧迫により、社会資本整備を取り巻く状況はかつてない厳しい局面を迎える。
- このような時代にあっては、既存のストックを有効に活用するとともに、計画・設計・施工・維持管理・利活用等の施設のライフサイクル全てのフェーズにおいてストック効果最大化に向けた取組を展開していく必要がある。

＜事業間で連携し、高度に集積したストック効果創出に向けた取組のイメージ＞

虎ノ門

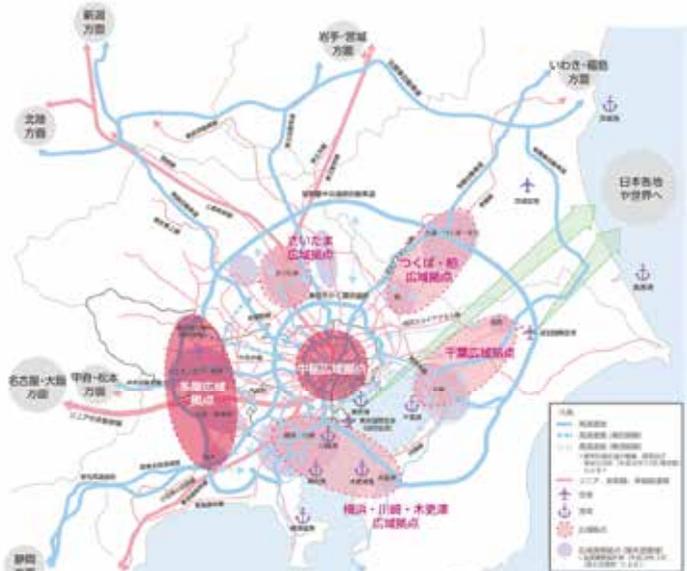


空港や臨海部とつながる
新たな交通結節点

1-3 未来に向けたインフラ・レガシーの継承

- 今後急増する都市インフラの維持管理・更新需要への適切な対応はもとより、これまで発展・成熟の過程で培ってきた知恵の結集として、過去のベストプラクティスに学び、良質なインフラのストックを次世代に継承していかなければならない。
- さらに、今後「都市づくりのグランドデザイン」で示した目指すべき都市像を見据え、都市機能の集積やインフラストックを最大限活用し、都市をマネジメントする視点を重視するなど、長期的な観点からESG※の概念を取り込んで分野横断的に都市づくりを進め、ストック効果の創出・最大化を図っていくことが重要である。

＜交流・連携・挑戦の都市構造＞



※ESG:Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)の略

出典：都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）